

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲7 2 8 - 1
自己評価作成日	平成21年11月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>スタッフは運営理念である「ゆっくり、楽しく、いつも一緒に」を常に心掛け、利用者に寄り添いながら支援しています。外出や日々のレクリエーション、ティータイムと、利用者と過ごす時間を大切にしています。</p> <p>医療との連携もスムーズで安心して生活することができます。</p> <p>中学校や近隣の方々との交流も多く地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいます。</p>
--

<p>回覧板で事業所主催の「夕涼み会」の案内を回されたり、中学校の運動会には、事業所の利用者のために、ひとつテントを用意してくださっている。お隣の中学校から生徒が福祉体験にユニットに3名ずつ来られ、車椅子の体験をされたり、一緒にお好み焼きを焼いて利用者とともに食事をされた。又、リコーダーを披露してくれたり、一緒に歌を歌ったり、レクリエーションを楽しまれた。中学生と顔見知りになり、普段でも手を振ったり声を掛け合っておられる。</p> <p>地域の方に紹介いただいた地方紙を購読するようになり、地元の馴染みで身近なニュースや最新情報を利用者が知ることができるようになった。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) きんかん

記入者(管理者)

氏名 岡田 奈美

評価完了日

平成21年11月12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設当初より地域との関係の継続を考えた理念を作り、実践できるよう努力している。スタッフの目のつく所に理念を掲示し、日々、確認しながら利用者関わっている。	
			(外部評価) 「地域の中でその人らしく暮らしながら人間の尊厳を大切に生きて行く」、家庭的な雰囲気の中で、「ゆっくり 楽しく いつも一緒に」をモットーとして自立支援を行うことを運営理念に掲げて、日々利用者の支援に取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 公民館でのバザーの参加、中学校の運動会や福祉体験、地域の防災訓練等、交流を図っている。今年も地域の方に声かけして、ホームで3回目となる夕涼み会を行った。常日頃より、挨拶や会話をするよう心掛けている。	
			(外部評価) 回覧板で事業所主催の「夕涼み会」の案内を回されたり、中学校の運動会には、事業所の利用者のために、ひとつテントを用意してくださっている。お隣の中学校から生徒が福祉体験にユニットに3名ずつ来られ、車椅子の体験をされたり、一緒にお好み焼きを焼いて利用者とともに食事をされた。又、リコーダーを披露してくれたり、一緒に歌を歌ったり、レクレーションを楽しまれた。中学生と顔見知りになり、普段でも手を振ったり声を掛け合っておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験や実習の受入れ等は積極的に行うようにしているが、知識や技術を十分に地域の方へ活かせてはいない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議での意見を参考に、地方紙の購読、近くの商店を利用するようにしたりしてきた。議題を現状報告や行事報告、ケアプラン、地域行事等、幅広く設定し、意見を頂くようにしている。頂いた意見はスタッフ会で話し合い、サービス向上に努めるようにしている。	
			(外部評価) 会議時には、地域の方や地区の他グループホームの方にも参加いただき「介護計画書について」「外部評価について」「避難訓練」「感染症対策」等、事業所の取り組みについて報告して質問や要望、助言をいただいている。地域の方に紹介いただいた地方紙を購読するようになり、地元の馴染みで身近なニュースや最新情報を利用者が知ることができるようになった。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 3ヶ月に1回の八幡浜市GH連絡会、当ホームの運営推進会議への参加、さわやか相談員の来所、入退居者の報告と日頃から協力関係ができています。市の係の方は、いつでも心良く相談にのっていただいている。	
			(外部評価) 市の担当者とは、相談や質問等、電子メールでやり取りをされており、運営推進会議の報告書や便り等を直接、市の窓口へ届けておられる。介護相談員の方からは、手洗いや義歯の扱い方等についてご意見をいただき、早速、歯科衛生士に問い合わせ、使い方を見直された。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 附帯施設勉強会で、スタッフが順番に身体拘束について学んでいる。玄関は施錠せず見守りを強化、4本柵を使用せず鈴で動きが分かるようにする等、拘束をしないケアに努めている。	
			(外部評価) 身体拘束について職員は法人研修等で勉強されている。現在、ユニットによって、ベッドの上がり降り時に転倒の危険があり、ベッド柵をされている。これまで鈴を付けたり、物音等にも気を付けられたようだが、ご家族との相談の上で柵を付けられた。	さらに、ご本人の安全も守りながら、ご本人の意思等も大切に支援できるように検討を重ねていかれてほしい。「ベッド柵をしなくてもすむような対策」について、考え続けていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 附設施設の勉強会で高齢者虐待防止法について学んでいる。学んだ内容はスタッフ会でも報告し、全員で防止できるような努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等あれば、なるべく参加するようにしている。事業や制度についての概要を知っているスタッフはいるが、実際に必要と思われる方はなく、必要があれば、皆で勉強し、活用していきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約は十分な時間をかけて行い、納得した上でサービスを利用して頂くようにしている。介護報酬の改定等、内容に変化のあった時にはその都度文書で説明するようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃、利用者、家族からでた意見は、運営日誌に記入し、スタッフが周知できるようにしている。運営推進会議を通して意見が出たり、さわやか相談員を通して利用者の意見が聞けたりしている。 (外部評価) ご家族へは、ホーム便りに写真を多く採り入れ、行事等の報告をされたり、職員の紹介をされている。又、電話での報告や行事に案内をされている。敬老会に、ご家族が大正琴を披露してくださったり、ご本人が図書館を利用される際には、迎えに行っていたり、時に、協力をしてもらうこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度、スタッフ会を開き、意見を出し合い、話し合う機会を持っている。内容によって、反映できることもあれば、できないこともある。	
			(外部評価) 管理者は、年に2回、法人と話す機会があり「困っていること」等を相談されている。又、職員は、4・10月に個別に目標を設定することになっており、それらに基づき、管理者が職員と面談して日々の意見等を聞いておられる。行事担当者を中心に他職員と相談して、敬老会では職員が「金色夜叉」の劇をされた。又、職員会時には業務やケアについて意見交換をされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人内に、登用規定があり、資格取得、勤務態度によって、雇用形態が変更できるようになっている。面接を行ったり、異動希望調査を行ったり、働きがいの環境作りに努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修、法人の研修、附属施設の勉強会と常に色々な研修を受ける機会を設けており、知識、技術を身につけている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議、市内GH連絡会、各ホームの行事等で他のホームとの交流が持っている。徐々に管理者だけでなく、スタッフ同士が交流できる場が増えている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にホームを見学されたり、利用者に管理者が必ず面会し、話を聞くようにしている。入所当日も管理者が対応し、安心して頂けるよう努めている。入所後は、聞き取った情報を書面にまとめ、スタッフが日々のケアに取り入れている。表情、動作、言葉をしっかり観察し、安心して生活できる環境を早く作れるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約には十分時間をかけ、重要事項説明書に沿って詳しく説明を行っている。同時に要望や不安な点など、ゆっくり聞くようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 母体病院の医療情報課を通して入所される方が多く、ほとんどの方がグループホームを希望され入所されている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、出来る事は何でも一緒にして頂いている。利用者同士も役割を作り、助け合えるよう心掛けている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム行事の案内を家族へ送付し、参加を促している。面会に来られた時には最近の様子などを伝え、行事などの写真を見て頂いている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出レク時に自宅へ寄ったり、自宅の周辺へ行く事で、家族と会ったり知り合いの人と出会える事がある。家族への電話をかける手助けをしている。	
			(外部評価) お友達が遊びに来てくれ、居室でおしゃべりされたり、行事で外出した際に、学生時代に通っていた学校の近くを通ってみることもある。ご親族の結婚式に出席された利用者もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作品作り、レクリエーション、食事など、利用者同士の相性を考慮して、楽しく過ごせるよう支援している。時には、スタッフが間に入り、関係を取り持つようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了すると今までと同じ関係を続ける方はほとんどいないが、相談があれば対応しようと考えている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から、コミュニケーションを十分にとり、思いや意向を汲み取るようにしている。困難な場合でも、表情やしぐさを観察して思いを理解するよう努力している。 (外部評価) 法人の病院からの入居が多く、病院からのサマリーでこれまでの情報を知り得ておられる。	職員は、利用者個々とゆっくりお話する時間を作り、ご本人の思いを探っていきたいと考えておられる。食べたいものや行きたいところ、終末期のあり方等、ご本人から暮らしについての希望や思いを表してもらえようような職員の働きかけ等、かかわり方の工夫が期待される。又、職員で情報共有していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者、家族からの情報を元に、アセスメントシートにまとめるようにしている。自宅に訪問したり、地域の事など把握できるように努力している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃から利用者との関わりを大切に、しっかり観察するようにしている。3ヶ月に1回のケアプランの見直し時期にはアセスメントシートを利用し、特に現状について皆で考えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>ご本人の思いや意向、ご家族の要望等も引き出して計画に採り入れられるよう、取り組みをすすめていかれてはどうか。</p>
			<p>本人、家族の意見や意向を聞いてカンファレンスを行い、より良いケアができるように介護計画を立てている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	<p>利用者毎に日々の様子を記録し、気付いた事は他のスタッフに送るようにしているし、計画を立てる時にも活かしている。</p>
			<p>利用者毎に日々の様子を記録し、気付いた事は他のスタッフに送るようにしているし、計画を立てる時にも活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>利用者や家族の方の要望に出来る限り答えられるようスタッフで話し合い取り組んでいる。</p>
			<p>利用者や家族の方の要望に出来る限り答えられるようスタッフで話し合い取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	<p>公民館行事、防災訓練等に参加している。</p>
			<p>公民館行事、防災訓練等に参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主治医が定期的に往診されている。毎日利用者の様子 をファックスで伝え、変わった事があれば看護師を通 じ、医師へ連絡が入るようになっている。直接、主治 医とも携帯で連絡をとれる体制ができている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>母体病院から入居に至る場合が多く、引き続き、協力 医でもある主治医が往診で診てくれるようになっている。 入居時のかかりつけ医に引き続き受診できると説明 されているが、「定期的に往診してもらえる協力医 が安心」とかかりつけ医を変更される方が多いよう である。協力医は、24時間いつでも相談、対応してく れるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>連携看護師が母体病院から1週間に1度は様子を見に 来られている。日常の関わりの中で気付いた事、疑問 点等を話し、早急に対処できる様連携している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>母体が病院なのと、看護師も母体病院から健康管理に 来てもらっているので利用者の様子等を伝えてもらえ る、又、見舞いにも行ったりしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>早い段階から具体的な話し合いはまだまだ少なく、重度 化の可能性のある場合には、医師、家族を交え今後の 方針を検討するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時には、看とりの指針に沿って事業所の支援につ いて説明をされている。「食事量が減った」等、利用 者の状態変化時には、医師がご家族に状態等を説明し てくださり、今後のことについて話し合っておられ る。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内の附帯施設が集まって緊急時の対応について、定期的に勉強会を行っている。勉強会に職員が順次参加している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昼、夜を想定し、年2回の避難訓練を行っている。1回は消防署の方に来て頂き、指導してもらっている。地域の防災訓練にも職員と利用者が参加している。 (外部評価) 近隣の家から出火したことを想定して、避難訓練を実施された。階段に蛍光テープを貼って火災時でも目印になるようにされている。運営推進会議で地域の方達に協力をお願いされており、管理者は、「この施設に高齢者がいることを知っていただくことが第一歩」と考えられていた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った言葉かけや対応に努めている。個室と共同スペースがあり、自由にその時々で過ごしてもらっている。 (外部評価) 管理者は、職員に利用者の呼び方や言葉使い等に気を付けるように指導されている。外部からの情報等もきっかけにして取り上げ、全職員に気を付けようと伝えておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる範囲で本人の思いや希望が表せれるよう努力している。また、自己決定できるような声掛けを心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせながら、気分や体調に気を配り、一日を過ごして頂いている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好きな服を着たり、化粧される方がいたり帽子を選んだり、好みのスタイルで過ごして頂いている。自らされない方には、髪をといたり、服を選んでもらったり、するよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 材料切りや配膳、食器洗い、片付け等、それぞれ出来る事を一緒にして頂いている。誕生日や行事には、入居者の希望メニューを取り入れている。	
			(外部評価) 法人内の献立案をもとにして事業所で食事作りをされており、食事の下ごしらえや配膳、片付け等、利用者個々ができることを行っている様子が見られた。食後、座席でゆっくり過ごせるような時間を設けておられる。調査訪問時、誕生日の利用者がおられ、お寿司・刺身・ビール・手作りケーキでお祝いをされていた。時にはベランダで食事をされたり、外食に出かけられることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重の変化や排尿の回数等、摂取量の参考にしている。様々な栄養素が摂取出来るよう献立を考え、水分も摂れない方には、声掛け、自室にお茶を置くよう工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアをするよう促している。状態に応じ、できない所は介助している。拒否の強い方の介助が十分に行えていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記入し、時間をみてトイレ誘導したり、利用者1人1人のパターンに合わせ支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表に時間等を記録し、できるだけトイレで排泄されるよう誘導されている。間に合わないこともあるので尿取りパッドを使用されたり、夜間はポータブルトイレや尿器等も使用しておむつをできるだけ使用しないように取り組まれている。尿失禁のある方も、ご本人が布パンツを希望されている方は、ご自分で交換することができるよう、そっと下着等を準備されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜、水分の摂取に気を配り、レクリエーションでも体を動かす様支援している。内服薬や浣腸に頼ることもある。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴に関して希望を言われる方は少なく、入浴の好きな方、嫌いな方も定期的に入浴されている。時間帯は午前中にレクを行っているため午後からになっている。失禁があったり、発疹があったり、希望であったり臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 午前中は、活動を中心に、午後から入浴するようになっている。毎日入浴される方や、夕方に一人で入られる方もある。亀ヶ池温泉の足湯を楽しまれたこともある。入浴後に髪をとかし、ツバキ油をつけることが習慣のある方もいた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者により、昼夜の区別のない方は、眠れる時に眠って頂き、体調の悪い方などは、日中でも休んで頂くよう支援している。個々にあわせて休息をとっていただくよう心がけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬とお薬の説明が一緒に届けられるので、その都度、内容を確認している。服薬に支障のある利用者は、手渡しで確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人1人出来る役割を決め、毎日やって頂いている。毎月の誕生会には好きな食べ物、飲み物で楽しんでいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換に外出レクや散歩をすることはあるが、その日の希望に沿ってはできていない。外出レクにあわせて希望されていた買物へ行ったり、受診後自宅へ寄ったり、出来る限り希望に沿えるよう努力している。	
			(外部評価) 国道までの道や中学校周辺、神社まで等、その日、そのメンバーによってコースを決めて散歩に出かけておられる。天気の良い日は、玄関前で日向ぼっこやボールを使った運動をされている。月に1回の外出では、伊方町のきらら館や西予市のどんぶり館、又、内子等にも出かけておられる。又、八幡浜市の八日市に行くと知人に会い「元気やったかな」と声を掛けてもらったりすることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理出来る利用者は、少額のお金を個人で持たれ、欲しい物があれば、買われている。その他は、施設の方で管理している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたい希望がある方は、かけられる様、支援している。ホームから用事があって電話することがあれば、ご本人とも会話していただくようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関、廊下、居間、食堂など、花を生けられる場所には、季節感を取り入れ工夫して、利用者様に喜んで頂けるよう配慮し、草花を生けている。毎月のカレンダーを作成し、個々に各部屋に飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員が山から切って来られたもみの木やつるには、クリスマスの飾り付けがされており、居室の入り口にも手作りのリースを掛けておられた。玄関を入った正面には神棚があり、お正月には、手を合わせて皆で干し柿をいただくことになっている。水仙の花やさざんかも生けてあった。居間には、折り紙の作品や利用者が描いた水彩画が飾られていたり、ベランダには、利用者個々の鉢に、球根が植えられていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにて、テレビ、ソファー席を設けて、皆さんと楽しく、くつろがれたり、会話の出来る居場所を設置している。ベランダには庭木や野菜畑がいつでも見られるよう木製の椅子が置いてあり、よく利用されている。通路に長椅子、2箇所有り、いつでも休める。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の写真や昔の生活が思い出されるような写真類、持ち物等を飾って、居心地良い空間を各部屋提供している。タンス、洋服かけ等、衣類も、すぐ利用できるよう置いてある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ご家族の写真やご自分が塗った塗り絵の作品、額に入った百歳のお祝いの賞状が飾られていた。編物をされたり、居間で折っていた折り紙の続きをお部屋でされる方もある。お好きなテレビを見たり、陽の当たるところで日向ぼっこをされている方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各場所の表示など、判りやすいように表示しており、個室等には似顔絵、作品等を貼っており、判りやすいように工夫してある。出来ることは、各自協力され、いつでも参加できるように工夫して無理はさせないようにしている。</p>	